エリザ・R・シドモアをご存じですか？

日本を愛し、桜を愛でる日本人の心を愛したエリザ・シドモア。
平安時代から日本で愛されてきた桜と花見の文化を、祖国アメリカの首都、
ワシントンに持っていきたい、と考えついたアメリカ人ジャーナリストです。

いまでは世界的に有名なワシントン・ポトマック河畔の桜並木。苗木は 1912 年（明治 45 年）、当時の尾崎行雄市長の名前で東京市からアメリカ市民へ贈られ、3 月 27 日、タフト大統領夫人も出席して植樹式が執り行われました。しかし、桜が日米親善のシンボルとなるまでの陰の立役者が、アメリカ人の女性、エリザ・ルアマー・シドモアだったことは、日本でもアメリカでも広くは知られていません。

シドモアは、1885 年の初来日以来、幾度となく日本を訪れ、アメリカで大ヒット作となる旅行記 **<Jinrikisha Days in Japan>** （「**シドモア日本紀行: 明治の人力車ツアー**」外崎克久訳 、講談社学術文庫）を出版しました。日本滞在中に隅田川の河畔で、桜の下で春の到来を喜ぶ日本人の姿を見て、当時未整備だった首都ワシントンのポトマック河畔もこんな風にしたいという夢を抱きます。当初は「サクラってなんだ？」とアメリカ当局から理解を得られませんでしたが、彼女は説得を続けます。その熱意に動かされ、日米双方で次第に支持者が増えて贈呈が決定。横浜から桜の苗木 3000 本が船で運ばれ、植樹に至ったのです。シドモアが桜を初めて見てから 25 年を超える月日が経っていました。その間、彼女を精神面や資金面で支えたのが、化学者で実業家の**高峰譲吉博士**、「武士道」の著者で元国連事務次長の**新渡戸稲造博士**、苗木の梱包や発送を行った**横浜植木**、無償で輸送を申し出た**日本郵船**など、数多くの人々や企業、団体の善意と努力がありました。

シドモアは、世界平和のために創設された国際連盟本部のあったスイス・ジュネーブに移り住み、1928 年、７２歳の生涯を終えました。彼女の遺骨は、その死を惜しむ日本政府関係者の配慮で日本に迎えられ、横浜山手の外国人墓地にある母キャサリンと外交官だった兄ジョージが眠るシドモア家の墓に埋葬されました。時は流れシドモア家の墓前に立ち止まる人影は少なく、シドモアの功績も次第に忘れられるままになっていましたが、1987 年、毎日新聞記者だった生出恵哉氏が発起人となって「シドモア桜の会」が結成され、顕彰碑が建立され、墓前祭も開催されました。

そして 2021 年、当会は「シドモア桜の会　横浜」として再出発。ワシントンから里帰りした桜を接ぎ木で苗木を増やし「シドモア桜」として横浜市や神奈川県内のみならず、高峰譲吉博士（石川県）や新渡戸稲造博士（岩手県）など、シドモアとゆかりのある各地や、彼女の愛と冒険のスピリットを次世代に継ごうという各学校のご理解も得て植樹活動を進めています。さらには、2027 年 3 月から横浜市で開かれる GREEN X EXPO 2027（2027 年横浜国際園芸博覧会）でもシドモア桜を植樹し、屋内展示への参加を決定。このイベントに向けて横浜市全 18 区シドモア桜植樹プロジェクトなども行っています。

当会の活動を是非皆様に知って頂ければ幸いです。

2025 年 9 月吉日　シドモア桜の会 横浜

E-mail ：sakura.scidmoreesy@gmail.com

シドモア桜の会 横浜